

会議概要書

会議の名称	第3回 通学等検討委員会
日 時	令和4年3月9日（水）午後6時～7時10分
会 場	市役所 東中会議室
出席者	市教委：竹内次長、三原課長、一本木課長補佐、松倉課長補佐、渡辺主任、（仲原教育委員、下川教育委員）7名 委員：7名、（準備委員会委員長）1名
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 報告事項 （1）新中学校の校名について 4 会議事項 （1）通学方法について / （2）その他 5 そ の 他 ※校名等検討委員会の進捗状況報告 6 閉 会
主な意見等	<p>【通学方法に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1.5～2 km未満を自転車可としたときに、徒歩で通学することはよいのか ⇒ 徒歩で通学も可 ・選択できる範囲が広い方がよい。2 km未満を徒歩と決めてしまうと選択の範囲が狭くなるので、徒歩通学は1.5 km未満がよい。ただ、自転車通学が増えてしまう課題は残る。 ・地区別に通学手段を落とし込んだシミュレーション資料で、「自転車／選択区間」となっているのは ⇒ その地区が自転車で通学する距離と選択区間となる距離の2つが混在すること ・駐輪場のスペースを拡張することはできないのか ⇒ 物理的に不足する場合には拡張することも選択肢になる。必要な場合には用地などを検討する必要がある。全くできないことではない。 ・現在、道のり2.5 km未満で徒歩の生徒が、直線1.5 kmが徒歩となると自転車通学になる生徒も出てくる。 ・前回、自転車通学の生徒が増えると心配であると意見があった。自転車通学が増えると事故が起きる確率は増えることはあると思う。 ・将来的な生徒数を考えるとどうか。今ぐらいの目安でよいのか ⇒ 通学手段別の生徒数はわからないが、生徒数はR5：510人、R6：500人、R7：480人、R8：450人と推移する。 ・案3であれば、自転車通学が200人を超えることはない。 ・過去10年くらいで通学上の事故は何件あるのか ⇒ ほとんどない。通学中に自転車で田んぼに落ちたとかといったもの。全国的には、登下校中に自動車が突っ込む重大な事故などが起こっている。自転車通学は事故を心配される部分は大きい。 ・いまでも電車通学の高校生や中学生が多いが、交通ルールの指導を学校等で行ってもらえばよい。時には警察からも指導してもらえば、事故の発生を抑えられるのではないかと。

- ・自転車が一時的に混むことはないか ⇒ 常盤からの自転車通学が込み合うということはない。
 - ・社も常盤も冬は自転車通学が危ないので、スクールバスやふれあい号、電車にしているところもある。
 - ・1.5～2 km未満の63人が何処の地区か。心配されるバイパスの東側から通う地区がどの程度か ⇒ 俵町、相生町、神栄町、山田町、北山田町がある。
 - ・バイパスの横断個所は、岳陽高校の交差点になるのがほとんどではないか。
 - ・バイパスの歩道は並走できるか ⇒ 指導上も並走はできないし、歩道も並走できる幅はない。
 - ・バイパスの歩道を自転車が通行してよいのか ⇒ 「自転車は歩道へ」の標識があり通行可能。
 - ・通学路の選択方法をどのようにするか指導もある。
- 直線1.5 kmは固定。自転車の通学範囲も自転車だけでなく、徒歩も可とする。
- ・常盤駅周辺でも、距離で通年自転車もいれば、冬場は電車となる生徒もいる。
 - ・自転車通学の方が、多少遠くても、時間の融通がきく。特にクラブ活動で。
 - ・一定の通学手段を決めても部活動等の状況によっては柔軟な対応が必要である。
 - ・案2だと自転車でなければいけない生徒が増える。
- 案1とし、自転車の部分は徒歩も選択できるようにする。
- ・バイパスの横断個所を決めておくことは必要ではないか ⇒ 届出たところが通学路としている。通学路の指定が必要かになる。
 - ・通学路の指定は遠回りになる生徒も出てくる。
 - ・バイパス横断のような危険な個所だけを指定するのはいかがか ⇒ 仁中では、上橋西側のJRのアンダー（昭電前）は通学しないように指導している。
 - ・岳陽前のバイパスでは指導はあるか ⇒ 歩きのため特にない。
- 通学の危険個所は整理してあるので、それと併せて自転車通学については指導をしていく。
- ・冬場、自転車通学の生徒をバス（電車）通学としているところがある。冬場のバス通学が増えることが考えられる。
 - ・一中の生徒でも、例えば、靴流通センター以北はバス通学がでることも考えられる。
 - ・子どもが歩きたがらない理由に、一緒に通う子どもがいないこともある。冬場にバイパスを自転車で通うことはいかがか。
 - ・2.0 kmまで自転車通学可としているが、冬場は歩くのはいかがか。
 - ・夏場、自転車で、冬場、歩くのは。保護者の送迎が増えるのでは。

- ・2.0 kmの徒歩通学は30分程度。冬場の徒歩通学はあってもよいのでは。
 - ・小学生の方が（距離を）歩いている。中学校の方が、かえって自転車通学になり歩かない。
 - ・中学生は部活動などもあり下校が遅いところもある。
 - ・通学の条件を夏と冬で分けるのは ⇒ 現在も分けている。
- 冬場のシミュレーションを、改めて事務局案を作成する。徒歩は直接1.5 kmを基本とする。案1を基本にシミュレーションする。部活動への対応は柔軟に特例を設けることとする。
- 【その他】**
- ・通学方法以外の検討項目はどうなる ⇒ P T Aや学校運営協議会は現在、校務等調整委員会で検討中。具体的な検討内容は未定ですが今後お示ししたい。